

企業名： 日本道路

レポート名： 統合報告書 2024

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

日本道路の経営理念は「ESG 経営を推進することによって、社会から信頼され、存続を望まれる企業となるとともに 持続可能な社会づくりに貢献する」となっている。度々サステナブル、ESG、利益の3つが主に強調されており、上記の経営理念に即している。現状の取り組みとしても、廃 PET を再利用するサステナブル工法を用いた建設が行われており、サステナブルな社会づくりへの貢献に取り組む姿勢は見られている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

コアコンピタンスとして「高度な技術力」、「現場の機動力」、「探求心を持つ人材力」の3つが挙げられており、実際の数値とともに明示されている。そのため理解しやすいと言える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

競争優位性の深堀がなされていないため、理解できない。海外展開をしているのだからその実績と合わせてそれを競争優位性として掲げたほうが良いと思われる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人材育成拠点の土浦テクノ base を建設するなど人材育成に注力しているのが伝わる。その一方で具体的にどのように教育し、どのような人材に育てるか、そもそもの社風や職場の雰囲気、教育の質などが記載されていないため、私の人的資本の価値向上を達成できるかどうかは判断できかねる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

一貫して ESG が取り上げられており、ESG マテリアリティマップや数値目標で戦略を具体化していたのは良かったと思う。一方で ESG の取り組みが事業に占める割合、ESG 目標に対して具体的な取り組みがしっかりと記載されていない、競争優位性がありきたりで他社と比べた時の独自性が見られない、といった点は改善する必要がある。またカーボンニュートラルを目標としているものの、それを実現する手段が見られず、実現するのに他者依存となっているように見受けられる。少子高齢化に伴う小中規模案件の縮小と大規模案件の拡大から日本道路としても業界とその成長性に限界を感じ清水建設の完全子会社となったのではないだろうか。それであれば統合報告書に清水建設と連携することで得られるシナジーなどをより深堀し強調するべきだと考える。